



井上 道義の 未来だった今より

北朝鮮の国立交響楽団に招待され、10月の第1週にピョンヤンで、コリオラン序曲、現地のソリスト、チョン・ヨンヒのバイオリンでメンデルスゾーンのコンチェルト、それにドボルザークの「新世界より」を振りました。北朝鮮は162カ国と国交があるそうですが、日本とはありません。躊躇しましたが、間に入った人が信用がおけたので、勇気をもって行きました。

結論は「百聞は一見にしかず」でした。私のHP (michiyoshi-inoue.com) で動画を公開するつもりですが、オーケストラはなかなかの実力で、楽団員は一徹な感じの男性がほとんど。ホール環境も楽器も一流で、生活も優遇もされている。33歳で才能のあるチェ・ジュヒョク君の指揮も見ました。短い訪問でしたし、プリンセス・テンコーほどではないにしろVIP待遇でしたから、見えたものだけで、

♪ ピョンヤンで指揮

表面を見ただけで、事実を軽々しく決めつける気はありません。しかし、外も自由に歩けたし、監視の目もなく、通訳は誰とでも話をさせてくれました。

こちらに流される情報も、体制や常識の違いから生じる違和感を常に悪意を持っているように曲解してはいけないと感じました。少なくとも、現在のピョンヤン市民に対する僕の印象は、若い頃に訪れた1980年代のチャウセスク時代のルーマニアやブレジネフ時代のソ連の状況とは違います。国民は、冷戦時代のまま分断させられている北と南を統一したいという目標を、押し付けられたとは言えない感触で未来に見すえているように映りました。簡単にハッピーエンドには終われない悲劇的な願望かも知れませんが。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

多くの構造物に甚大な被害をもたらした東日本大震災。私は、いち早く現場に駆けつけ、修繕、復旧される前の被害状況をつぶさに調査した。

重要となる。

壊れた原因はもちろんのこと、震性能について研究することが重要となる。

土木建設、建築分野が対象としている構造物は極めて大きい

ため、実際の規模で、耐震性能を明らかにする実験を行うことは容易ではない。これらの構造物が地震で被害を受けた際に、壊れた原因はもちろんのこと、震性能について研究することが重要となる。



18

震災被害 つぶさに調査

いしかわスク